

両生類・爬虫類

両生類や爬虫類はその姿から嫌われることも多いですが、自然界の食物連鎖において、大変重要な位置を占めています。また、両生類は水辺と陸地がなだらかにつながる環境でないと生きていけないので、環境の良し悪しをあらわすシンボルとしても、とても重要です。

今回の調査では、両生類2目5科11種、爬虫類2目8科13種を確認しました。この数は滋賀県全体の両生類の52%、爬虫類の76%を占めています。両生類の種類が少ないのは、草津市には山地が少ないため、サンショウウオ類のような山地にだけ生息する種が、ほとんどいないためです。

最も多くの種が確認できたのは、南部の馬場町から山寺町の丘陵地でした。一方、湖岸地域の水の豊富な水田地帯では、県の指定希少野生動植物種であるナゴヤダルマガエルの生息が確認されました。



ナゴヤダルマガエル (田邊真吾)

滋賀県レッドデータブック2010年版の絶滅危機増大種であり、県の指定希少野生動植物種でもあります。全国各地で激減していますが、県内では比較的多く見られます。水の豊かな水田や水路が多いためと考えられています。

草津市で確認された両生類

科名	種名	調査地域		
		湖岸	中心部	東南部
サンショウウオ	カスミサンショウウオ			○
アマガエル	ニホンアマガエル	○	○	○
アカガエル	タゴガエル			○
	ニホンアカガエル			○
	トノサマガエル	○	○	○
	ナゴヤダルマガエル	○		
	ツチガエル	○	○	
	ウシガエル	○	○	○
ヌマガエル	ヌマガエル	○	○	
アオガエル	シュレーゲルアオガエル			○
	モリアオガエル			○
合計5科	11種	6	5	8

注：ツチガエルは聞き取り情報のみで現地調査では確認されていません。
また、聞き取り情報のほとんどは、ウシガエルやヌマガエルの誤認でした。
確実な生息地は知られていません。

草津市で確認された爬虫類

科名	種名	調査地域		
		湖岸	中心部	東南部
	クサガメ	○	○	
イシガメ	ニホンイシガメ	○	○	○
	ミナミイシガメ		○	
ヌマガメ	ミシシippアカミミガメ	○	○	
スッポン	ニホンスッポン			○
ヤモリ	ニホンヤモリ	○	○	○
トカゲ	ニホントカゲ		○	○
カナヘビ	ニホンカナヘビ	○	○	○
	シマヘビ	○	○	○
	アオダイショウ		○	○
	ヒバカリ	○	○	○
	ヤマカガシ			○
クサリヘビ	ニホンマムシ		○	
合計8科	13種	7	11	9

注：ニホンマムシは古い文献情報のみで現地調査で確認されていません。



湖岸の水田地帯 (森本真琴)



中心部の社叢林と水田 (江頭幸士郎)



東南部の丘陵地 (江頭幸士郎)

身近な種類

ニホンアマガエルは低地から丘陵地の水田周辺に広く生息しています。トノサマガエルは水田で最も目立つカエルです。草津市内では珍しくありませんが、全国的には減少しています。ヌマガエルは各地で分布を広げている種類ですが、滋賀県における分布は限られています。しかし、今回の調査によって、草津市でも近年になって、分布を広げていることがわかりました。カメ類では外来種のミシシippアカミミガメが増えています。ニホンヤモリは市内一帯に生息しています。ニホントカゲやニホンカナヘビは自然が残った地域には広く生息しています。ヘビの確認例は少なかったのですが、ヒバカリは広い範囲で確認されました。



ニホンアマガエル (岸邊優)



トノサマガエル (田邊真吾)



ヌマガエル (森本真琴)



ニホンヤモリ (森本真琴)



ニホントカゲ (江頭幸士郎)



ニホンカナヘビ (江頭幸士郎)



ヒバカリ (江頭幸士郎)

外来種

外来種とは、外国や他の地域から持ち込まれた種類のこ
とです。ウシガエル(食用ガエル)は北アメリカ原産で、
環境省の特定外来種に指定されています。琵琶湖のような
大きな水面は、もともと日本にいる小さなカエルたちはほ
とんど繁殖できませんが、ウシガエルにはすみやすい場所
になっています。湖岸で見られる小さなカエルのほとんど

は、ウシガエルの幼体(子供)です。ミシシippアカミミ
ガメも北アメリカ原産で急激に増えています。もともとは
幼体が「ミドリガメ」の名で飼われていたものです。また、
最近の研究では、クサガメやミナミイシガメも外国から移
入されたものと考えられています。



ウシガエルの幼体 (江頭幸士郎)



ミシシippアカミミガメ (森本真琴)

希少種

湖岸の水田地帯では、滋賀県レッドデータブック 2010 年版の絶滅危機増大種のカテゴリーで、県の指定希少野生動物種でもあるナゴヤダルマガエルの生息を確認しました。絶滅した可能性が高い県もあるほど希少な種ですが、草津市では低地の水田地帯に点々と生息しています。ただし、水田の減少や改変によって生存が脅かされています。

南部の丘陵地では、希少種のカテゴリーであるカスミサンショウウオの生息を確認しましたし、ほかにも要注目種のタゴガエルやニホンアカガエル、シュレーゲルアオガエル

ル、モリアオガエル、ヤマカガシなども確認できました。したがって、この丘陵地は両生類、爬虫類の生息地として大変重要な場所と言えます。絶滅危機増大種とされているミナミイシガメは 1 地点で確認しましたが、移入種の可能性が高いと考えられます。その他、ニホンスッポンを市内で初めて確認しました。

トノサマガエルやニホンイシガメは市内には広く生息していますが、全国的には減少しており、環境省の第 4 次レッドリストでは準絶滅危惧にランクされています。



カスミサンショウウオ (江頭幸士郎)



タゴガエル (江頭幸士郎)



ニホンアカガエル (江頭幸士郎)



シュレーゲルアオガエル (田邊真吾)



モリアオガエルの卵塊 (田邊真吾)



ニホンイシガメ (田邊真吾)



ミナミイシガメの死体 (江頭幸士郎)



ニホンスッポン (江頭幸士郎)



ヤマカガシ (堀田典男)

草津市は丘陵地や水田の多くが開発されて都市化の影響が著しいものの、今なお、カスミサンショウウオやナゴヤダルマガエル、ニホンスッポンなどの希少な両生類や爬虫類が生息していることがわかりました。しかし、その状況はきわめて厳しく、このままの状況が続けば、いくつかの種が絶滅してしまう恐れもあります。これからも、多様な両生類や爬虫類が生き残れるように、生息に適した環境の保全や創出など、残された自然を大切にしていける必要があります。

例えば、両生類や爬虫類の多くの希少な種が生息している丘陵地の里山環境と隣接する水田環境では、これまでのように伝統的な維持管理を継続することや、ナゴヤダルマガエルの生息個体数が多い地域では常に水のあるような湿地環境を休耕田などに残存させることも重要です。

また、在来のカエル類の多くは浅い水域を繁殖に利用しているため、湖岸の開水面には少ないですが、湖岸のヨシ原はカエル類の非繁殖期の生息場所として保全することも大切です。